

保健体育部会

研究主題 「生徒による授業評価を生かした授業改善」

I 主題設定の理由

平成12年12月の教育課程審議会において、「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」の答申が出され、「評価の機能とこれからの評価の基本的な考え方」が示された。

この答申を受け、「東京の教育21」研究開発委員会高等学校部会では、「生きる力をはぐくむ評価の研究開発」を平成13年度から継続してきた。本年度は、これまでの「評価」及び「評価規準」に加え、指導と評価の一体化の具体的方策として、「生徒による授業評価」を導入することにより授業改善を進めていく手段について研究開発することとした。

これまで教科体育では、教師が生徒を評価（学習の評価）する、生徒自身が評価（自己評価）する、という二種類の評価を主に行ってきた。しかし、計画・実施した後に最終的に評価を行うことが多く、評価の結果を迅速に授業にフィードバックさせることが課題であった。教育課程審議会答申においても、「評価は、学習の結果に対して行うだけでなく、学習指導の課程における評価の工夫を一層進めることが大切である。また、児童生徒にとって評価は、自らの学習状況に気付き、自分を見つめ直すきっかけとなり、その後の学習活動や発達を促すという意義がある。」と、指導と評価の一体化の必要性が挙げられている。このことから、生徒による授業評価を生かした授業改善が「生きる力」の育成のために必要であると考え、研究主題を設定した。

II 研究の内容

「指導と評価の一体化」を実践する上で、今まで実施されていなかった「生徒による授業評価」を授業計画の中に位置付け、アンケート形式で実施し、その評価結果を授業改善につなげる方法を示すこととした。

1 授業評価を組み込んだ単元計画の作成

球技（バレーボール）を例に、生徒による授業評価を組み込み、評価結果を基にした授業改善を実践できるよう単元計画を立案した。

2 授業評価、アンケートの作成・実施

生徒による授業評価項目を、「授業内容」・「指導方法」・「授業の進め方」の3つの観点から作成し、授業改善の方向性が明確になるようなアンケート内容を示した。

3 授業改善の方策

生徒による授業評価の結果を生かした授業改善を、教員個人にとどまらず、教科や学校全体の取組としていけるよう、授業改善の方策を示した。

III 評価結果を生かした授業改善

1 目標に準拠した評価と指導

平成14年2月に国立教育政策研究所から示された、「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（中学校）」では、「学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況を見る評価（いわゆる絶対評価）を一層重視し、観点別学習状況の評価を基本として、児童生徒の学習の到達度を適切に評価していくことが重要となる」とされている。「関心・意欲・態度」「思考・判断」「運動の技能」「知識・理解」の四つの観点により、その学習状況进行评估することが求められている。

保健体育科では、「生きる力」をはぐくむ観点から、領域選択制や種目選択の授業を実践し、グループノートや個人カードなどを利用した生徒の自己評価及び相互評価を行ってきた。この評価により、目標に対する生徒の取組の状況を確認し、さらに教師が四つの観点で評価を行うことで、求めている目標に対する生徒の実現状況を把握し、つまずきに対する支援の手段を明らかにしようとしている。

2 指導と評価の一体化

これまでの評価は、「教師による評価」により、学期末及び学年末に評価(評定)を付けることが多く行われていた。また、評価は生徒の活動の結果という意味合いが強く、その結果を授業の改善に結び付けようとする考えはあまり多くなかった。評価を見て授業の改善を行っている教師でも、評価を基に教師個人の内面で授業改善を行ってきたにすぎなかった。

特に科目体育では、生徒の学習の成果やできばえを見て、授業の中で練習方法や指導方法を変えることにより授業改善を図っていた。しかしその変更はあくまでも教師側から見ただけの考え方でしかなく、評価は単なる結果と受けとめられてしまうことも少なくなかった。

評価に対する問題意識の高揚とともに、単なる結果にとどまることなく、後の授業改善の資料として捉え、計画的に生徒の状況の評価・判断し、学習指導の改善をしていくことが重要となってきた。その結果、授業は評価が終了点でなく、「計画－実施－評価－改善」という、フィードバックを生かした授業改善をすることが必要となる。そのためにも、評価の時期を工夫し、その後の指導の改善に結び付けることが大変重要となってきた。

3 科目体育の授業評価と授業改善

本研究では、授業改善を行うため様々な評価結果を集約・分析して改善点を見つけ出そうとしている。評価は大きく分けて、「教師による評価」と「生徒による評価」の二種類である。「生徒による評価」においては、従来からグループノート等を活用し、生徒の自己評価及び相互評価が行われている。今回、「生徒による評価」の1つとして新たに「生徒による授業評価」を導入し、「教師による評価」、「生徒の自己評価・相互評価」、「生徒による授業評価」の3つの評価の側面から、授業の改善点を明らかにしようとしたものである。

各学校では、生徒の実態や育てたい生徒像に基づき、学習指導計画や評価規準が作成され、授業が実践されている。その実践の成果や課題を3つの評価結果から探り、授業改善を図っていくことが重要である。

① 「自己評価」の観点

生徒による自己評価の観点を、教師が行う評価と同じ「関心・意欲・態度」「思考・判断」「運動の技能」「知識・理解」の四観点とすることで、授業のねらいを明確に示すことができる。

各自の授業に対する取組や目標の実現状況を、自己評価により把握させ、生徒自身の学びの改善を行うことを目指している。

② 「生徒による授業評価」の観点

「授業の内容」、「指導方法」及び「授業の進め方」と観点を明確化し、教師に対する好き嫌いや、単なる情緒的印象に陥らないようにした。

③ 「生徒による授業評価」の実施方法

生徒による授業評価はアンケート形式で授業の終わりに時間を取り実施する。回答方法を簡単にするとともに、自由記述欄を設け具体的な意見を記入できるようにした。

④ 「生徒による授業評価」で期待される効果

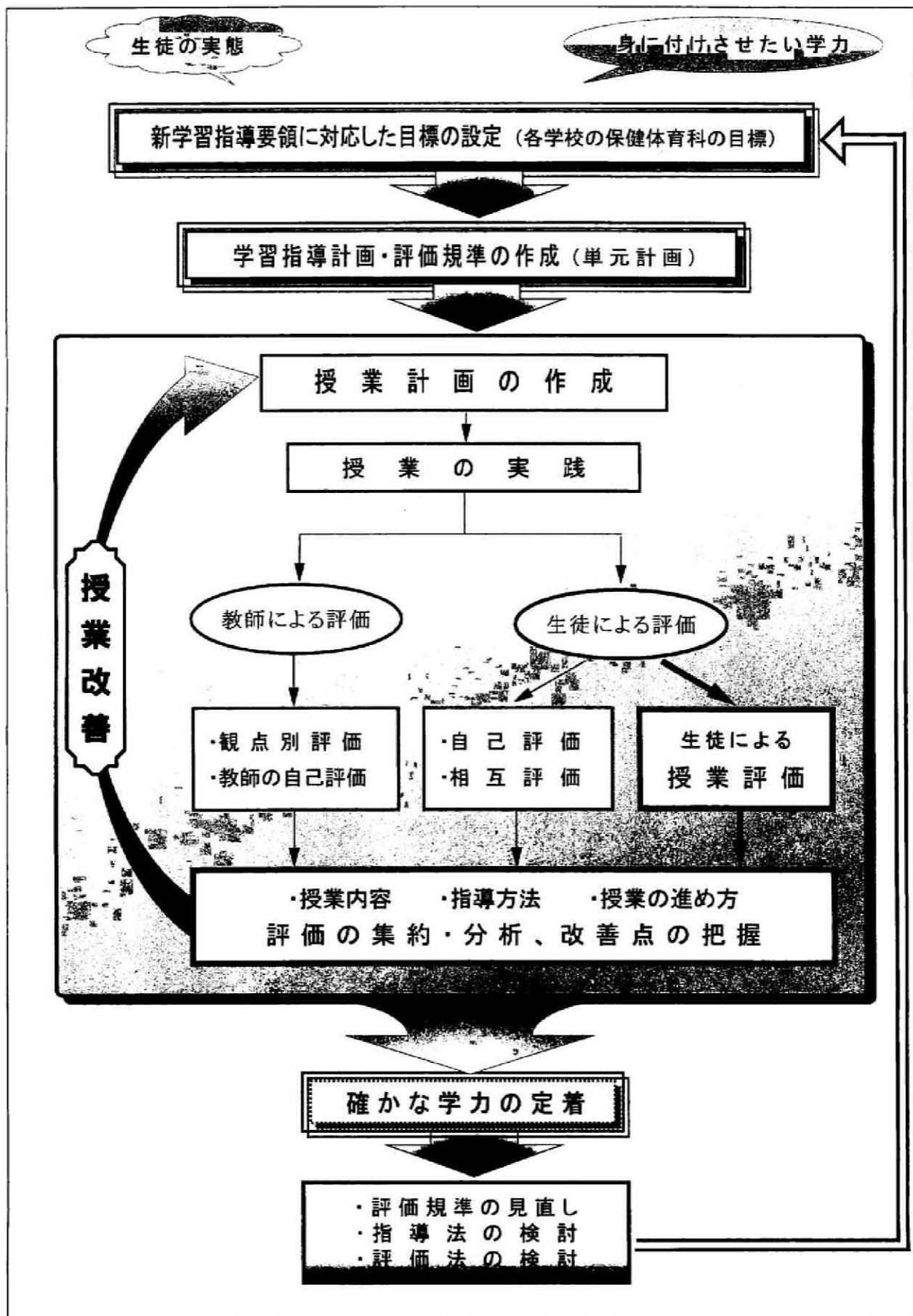
授業評価の始めに毎時間の自己評価の結果を集計させ、これまでの自分の授業に対する取組姿勢を振り返らせることで、授業に対する動機付けが高まる。

授業評価の実施時期を単元の中に配置することで、結果を迅速にフィードバックすることが可能で、生徒の要望等に素早く応えることができ、より学習意欲を高めることができる。

各観点ごとに、教師が把握できなかった課題が明らかになり、授業改善に向けた新たな方策がたてられる。

このように、教師による評価で「指導の改善」を行い、自己評価及び相互評価で「学びの改善」を、そして生徒による授業評価で「授業の改善」を行うことで、より充実した体育の授業となり、確かな学力の定着につながっていく。

<授業改善の流れ>



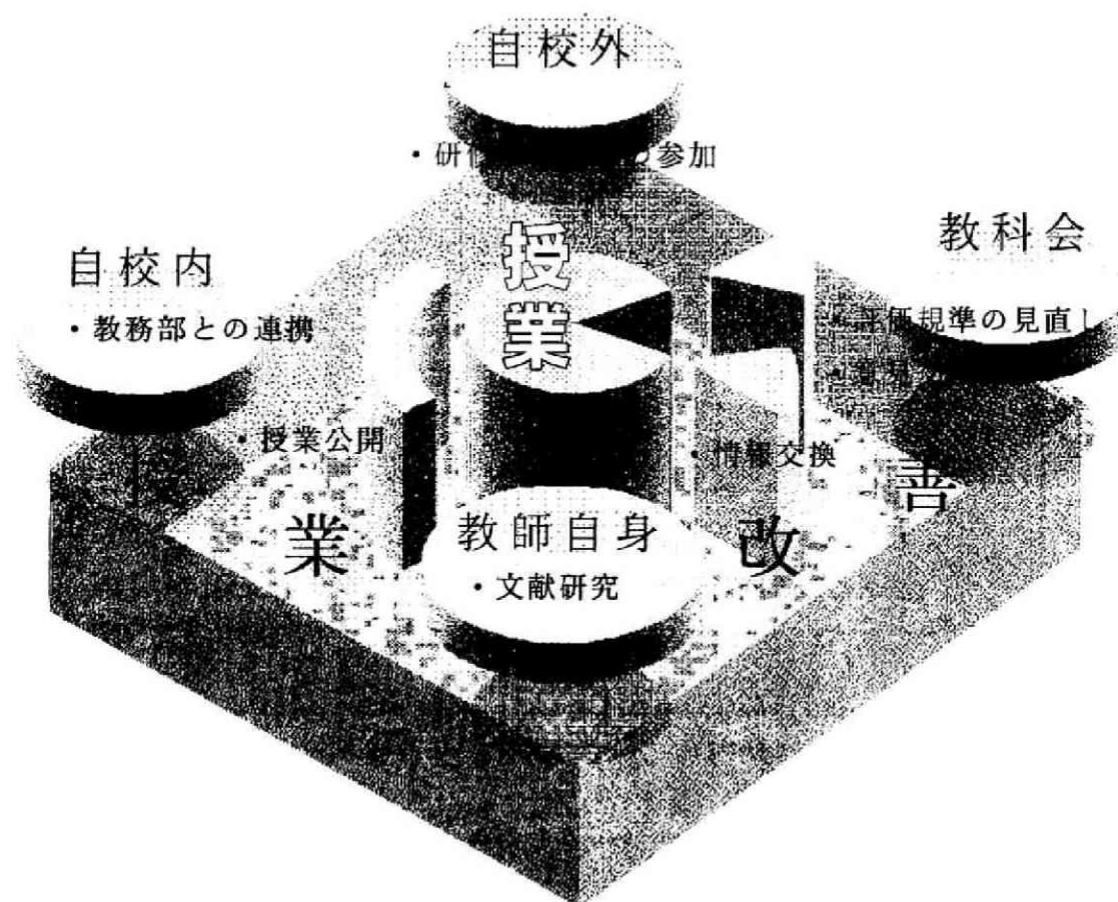
IV 「授業改善の方策」

さきに示した授業改善の流れの中で把握した改善点については、教師自身が内面的に授業の改善を図るだけでなく、教科の共通問題として捉え、教科の中で意見の交換を行ったり互いの授業を公開したりするなど、教科内の研修会を行い、教科として授業の改善に努めていくことが必要である。

また、授業評価や授業改善は各教科が単独に行うだけではなく、育てたい生徒像に基づき、全教職員の共通理解の下で学校全体が実施することが望ましい。その場合には、各教科の枠に縛られず、授業公開や校内研修会を実施し、意見交換や情報交換を積極的に行っていくことが大切である。

さらに、その枠を自校外にも広げ、全都に向けた授業公開、教科の授業研究、小学校・中学校・大学や地域との連携、研究会や研修会への参加などにより、授業改善の方策を探っていく働きかけが必要である。

<授業の構築>



<授業改善の具体的手段>

- i 教師自身による授業改善…文献研究や意見交換などを手がかりとする
- ii 教科会等による授業改善…授業を公開し研究授業などで研究協議を行う
- iii 校内の意見や評価を利用した授業改善
…校内研修会を利用し教科の枠を超え授業を公開し研究協議を行う
- iv 校外の意見や評価を利用し授業改善
…外部の研究会や研修会を利用したり他校の公開授業などを参考にする

V. 単元計画 〈バレーボール〉

単元名	バレーボール	実施学年	2学年 男女 (共習) 40名	実施時期	9月～10月
ねらい	(1) チームの課題に応じた練習を工夫し、個人的技能や集団的技能を高める。 (2) 防御から攻撃への連係を生かしたゲームを目指し、チームの特性を生かした作戦を立ててゲームを楽しむことができるようにする。 (3) 審判法及びゲームの運営を理解し、チームにおける役割を自覚してその責任を果たし、協力して練習やゲームができるようにする。 (4) 生徒自身が授業評価を行うことによって、主体的に学習目標を達成させる能力を高める。				
時間	学習内容	学習活動	教師による評価	生徒による評価	
主な観点《関心・意欲・態度》《思考・判断》《運動の技能》《知識・理解》					
1	導入 オリエンテーション	オリエンテーション ・単元計画を説明する ・チームを編成する ・練習計画を立てる	・バレーボールの楽しさや喜びを味わおうとしている。 ・チームにおける自己の役割を自覚し、その責任を果たそうとしている	関	・バレーボールに対する興味関心がある。 ・仲間と協力してチームを編成し、自分の役割を自覚して活動している。
2	展開 個人的技能を高める練習	チーム練習を中心とした学習 ・パス、サーブなどの個人的技能の練習に割り当てる時間を多くとるが、簡易ゲームを試行する。	・練習やゲームに積極的に取り組み、準備や片付けなども協力している。	関	・積極的に練習やゲームに取り組んでいる。 ・仲間と協力して準備や片付けをしている。
3		【導入】 グループノートを受け取り、教師からの評価を確認する。	・チームや自分の能力に応じた課題を設定し、練習内容や方法を工夫している。 ・グループノートや個人カードに活動内容や自己評価を的確に記入している。	思	・チームや自分の能力に応じた目標や作戦を設定している。 ・練習やゲームにおいて、安全や事故防止に留意している。
4		【展開】 本時の課題と学習内容を考え、グループごとに学習を進める。	・パスやサーブなどの基本的な技能を身に付けている。 ・3対3のパスゲームなどでラリーを続けることができる。	技	・基本的なパスやサーブができる。 ・自分の目標としている技能を身に付けている。
5		【まとめ】 グループノートや個人カードに、授業の内容や自己評価を記入する。	・個人技能の仕組みや高め方を理解しており、それに必要な合理的な練習方法や練習計画の立て方を知っている。	知	・バレーボールの特性や個人技能の高め方を理解している。 ・合理的な練習計画を立てて、チームの作戦に生かしている。
5	評価 授業評価Ⅰ	【授業評価】 通常のグループ学習を行い、授業の終わりに「生徒による授業評価Ⅰ」を行う。	生徒による授業評価Ⅰ 授業評価の観点 ①授業内容 ②指導方法 ③授業の進め方 単元前半(1～5時間目)までの授業及び単元全体についての授業評価を行う。単元前半の授業を振り返り、また単元後半の授業改善へつなげられる設問にする。		
6	展開 集団的技能を高める練習	授業評価の結果を生徒に提示し、指導の改善や授業計画の練り直しを図る	・ゲームにおける楽しさや喜びを感じている。 ・ゲームのルールを守り、審判の判定や指示に従うことができ、勝敗や結果を素直に受け入れることができる。	関	・バレーボールの楽しさや喜びを味わっている。 ・ゲームにおいて、審判の判定や指示に従うことができ、結果を受け入れている。
7		チーム練習を中心とした学習 ・【導入】【展開】【まとめ】は2～4時間目までと同様に行う。	・技能の段階に応じて戦術を考え、相手との攻防にあった作戦を立てている。 ・グループノートや個人カードから課題を見付けるとともに、その内容を次時に生かしている。	思	・目標の達成度に応じて、練習やゲームの仕方を見直したり、工夫したりしている。 ・ゲームの結果から、新しい課題や目標を見付けている。
8		・レシーブフォーメーションや三段攻撃などの集団的技能やゲームに割り当てる時間を多くしていく。 ・リーグ戦を行う。	・三段攻撃などの連係プレーができ、ゲームの中でラリーを続けることができる。 ・仲間のミスを事前に予測し、それをカバーする動きができる。	技	・三段攻撃などの連係プレーができたり、仲間のミスをカバーすることができる。 ・相手に応じた作戦を立てて、ゲームをすることができる。
9		・ゲームの結果によりチームや個人の課題を見付け、課題解決の方策を考える。 ・戦術を考え、それに応じた練習を行っていく。 ・審判方法及びリーグ戦の運営方法を学習する。	・合理的な練習の仕方や練習計画の立て方を知っており、ルールや審判方法及びリーグ戦の運営方法を理解している。	知	・技能を高めるための効果的な練習をしている。 ・ルール及び審判方法を理解し、リーグ戦を運営することができる。
10	まとめ評価 授業評価Ⅱ	【授業評価】 リーグ戦終了後、授業の終わりに「生徒による授業評価Ⅱ」を行う。	生徒による授業評価Ⅱ 授業評価の観点 ①授業内容 ②指導方法 ③授業の進め方 単元後半(6～10時間目)までの授業及び単元全体についての授業評価を行う。単元後半は、前半と比較し授業改善がなされたかどうかについても着目し、評価結果を次の単元での指導に生かす。		

VI 単位時間計画

単元名	バレーボール	担当時間	10時間中の6時間目	学年	2学年 男女共習 40名
本時のねらい	(1) 前時の生徒による授業評価の結果から今後の授業の改善点について理解する。 (2) 自己評価結果を基に単元前半を振り返り、活動計画の練り直しを図る。 (3) 生徒自身も授業改善に参加する意識を高める。				
施設	体育館 (バレーボールコート2面)				
用具	バレーボール20個、得点板、グループノート、個人カード、筆記用具、ホワイトボード、ホイッスル				
展開	時間	学習内容・学習活動	教師の改善点と支援	生徒の改善点	改善点の具体例
はじめ	5分	1) あいさつ、出席点呼 2) グループノートの返却 3) 授業の流れの説明	<ul style="list-style-type: none"> 生徒による授業評価の結果により、改善点を見付け、後半の計画を練り直す。 本時の流れやめあてを説明し理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループノートのコメントを確認し今後の活動に生かす。 授業の流れを理解し、目的をもって積極的に授業に取り組む。 	【授業内容】 <ul style="list-style-type: none"> バレーボールが楽しいと感じられる課題を設定する。 技能が向上する練習方法などを示す。 満足できる運動量を確保する。 授業の進め方や評価方法を明確に示し、生徒が目標を把握しやすいようにする。
なか	15分	【展開Ⅰ】 改善点の説明 教師より、授業評価の結果とそれによる授業の改善点を聞き、そのポイントを理解する。 グループ・ミーティング 改善点を理解し、グループ・ミーティングにより活動計画の見直しを図るとともに、個人やチームの新たな課題を発見する。	教師が改善すべき観点 <ul style="list-style-type: none"> ○授業内容 ○指導方法 ○授業の進め方 	<ul style="list-style-type: none"> 授業は教師と生徒が一緒に作り上げていくものであることを理解する。 授業改善には生徒も参加することが必要であることを理解する。 	【指導方法】 <ul style="list-style-type: none"> グループの編成を工夫する。 教材や施設の準備を十分に行う。 技術的なアドバイスを的確に行う。 グループノートをとおし、良い点や改善点を的確に指導する。
か	25分	【展開Ⅱ】 <ul style="list-style-type: none"> ・準備運動 ・チームごとに設定した練習 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒による授業評価の結果を分析し具体的な改善策を示す。 生徒が改善すべき観点と教師が改善すべき観点を関連付ける。 グループミーティングを巡回し、生徒が改善を感じているか確認するとともに、生徒自身も改善の意識をもっているか確認する。 授業改善に関連して、個人やチームの新たな課題を発見させ、その解決のための練習内容や練習方法などを工夫させる。 	生徒が改善すべき観点 <ul style="list-style-type: none"> ○関心・意欲・態度 ○思考・判断 ○運動の技能 ○知識・理解 	【授業の進め方】 <ul style="list-style-type: none"> 練習計画作成への支援を行う。 生徒の興味や動機付けが高まるような、時間配分を行う。 安全面の配慮を確実にを行う。
まとめ	5分	1) 整理運動 2) 個人カードの記入 3) チームごとのミーティング 4) 次時の確認、あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> グループノートや個人カードから、さらなる改善の余地を探る。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の活動を振り返り、個人カードに自己評価を記入する。 ミーティングにより反省点を見付け次時の課題にする。 	

Ⅶ 授業改善に向けた3つの柱

授業改善に向けた評価の柱を、「教師による評価」、「生徒による自己評価及び相互評価」、「生徒による授業評価」におくこととし、それについてのねらい及び具体例は以下のとおりである。

1 【教師による評価】

「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「運動の技能」、「知識・理解」の4つの観点で、目標に準拠した評価を行うことにより、生徒の状況に応じた内容の改善を図る。

2 【生徒による自己評価及び相互評価】

個人カード・・・「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「運動の技能」、「知識・理解」の4つの観点で自己評価を行い、各々について、単元の前半と後半で集計し、自己の学習について振り返りを行う。

グループノート・・・相互評価や、チームとしての反省をすることにより、次の練習課題や、互いの課題を確認させる手助けをする。

→ ☆ これらを基に、生徒自らの改善点を見付ける指導を行う。

3 【生徒による授業評価】…授業の改善

単元の5時間目に、アンケート形式で、「授業の内容」・「指導方法」・「授業の進め方」の3つの観点で生徒による授業評価（授業評価Ⅰ）を行うことにより授業の改善点を把握し、後半の授業改善を図る。また、単元の最後の授業時間にも授業評価Ⅱを実施し、評価規準の見直し、評価法や指導法を見直す資料とする。

教師による評価は、目標に準拠した評価を行うことにより、生徒の学習の実現状況を知り、「おおむね満足できる状況」にする手立てを再考することや、指導の改善を図ることにつながる。また、生徒による自己評価及び相互評価を行うことにより、ねらいを明確化させ、生徒自身やグループの課題を把握させ、学びの改善につながる。生徒による授業評価についても集計・分析し、課題を把握し、教員自身や教科会等で検討することにより、改善点を明らかにし、授業内容の向上、指導方法の改善、授業の進め方のより良い方法を見付けることができる。

<グループノート、個人カード、授業評価アンケートの例>

1 グループノート 第3時間目

① 月 日 () 時間目								
記入者名 _____ 欠席者名 _____								
★本時のねらい								
関心・意欲・態度 ・協力して練習・準備・片付けを行う ・勝負ゲームを楽しむ	運動の技能 ・トス、スパイク、ブロックができるようになる							
思考・判断 ・個人技他の課題を踏まえ、練習を工夫する ・勝負ゲームから次の課題を発見する	知識・理解 ・個人の技他の活かす方法を理解する ・個人技他を生かす勝負ゲームを理解する ・各自の技面到達度を知る							
★本時の活動計画								
・高呼・準備運動 (5分)								
・パス、トス (15分)								
・スパイク、ブロック (10分)								
・3人制バスゲーム (15分)								
・まとめ、ノート記入 (5分)								
★個人技面到達度チェック ○=できる、△=あまりできていない、×=できない								
名\技	パス	トス	スパイク	ブロック	準備	片付け	トス	スパイク
★反省と相互評価								
項	協力して練習、準備、片付けをする	課題を踏まえて、練習を工夫する	トス、スパイクが得意になる	練習内容、勝負ゲームを理解する	合計			
名	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1			
	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1			
	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1			
	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1			
	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1			
	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1			
	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1			
	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1			
	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1			
良かったところ・工夫したこと		悪かったところ・次時の課題						
★コメント								

第6時間目

② 月 日 () 時間目					
記入者名 _____ 欠席者名 _____					
★本時のねらい					
関心・意欲・態度 ・授業評価の内容を正しく理解する ・グループの授業に対する取組を反省する	運動の技能 ・グループの新たな課題解決やチームプレーの展開を身に付ける				
思考・判断 ・授業評価の結果をグループの練習に生かし新たな課題や練習方法を考える	知識・理解 ・授業改善について理解する ・着眼的な練習の仕方を理解する				
★本時の活動計画					
・高呼 (5分)					
・全体ミーティング (授業評価の結果説明) (15分)					
・グループミーティング (5分)					
・新たな課題に基づいた練習 (20分)					
・まとめ、ノート記入 (5分)					
★反省と相互評価					
項	協力して練習、準備、片付けをする	課題を踏まえて、練習を工夫する	トス、スパイクが得意になる	練習内容、勝負ゲームを理解する	合計
名	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1	4・3・2・1
良かったところ・工夫したこと		悪かったところ・次時の課題			
★コメント					

2 個人カード (1, 2, 6, 7, 10 時間目の例)

2年 球技選択 ~バレーボール~		組 番 氏名	
◇1時間目 月 日		本時の課題	高い ← 低い 4 3 2 1
自己 評価	① 関・意・態	バレーボールに興味や関心がもてた	/4
	② 関・意・態	チーム編成に協力し、自分の役割を自覚できた	/4
	③ 思・判	今もっている技能や知識を生かして簡易ゲームができた	/4
	④ 技能	基本的な個人技能は身に付けた	/4
	⑤ 知・理	バレーボールの特性が理解できた	/4
本時の反省・次時への課題		合計点	/20
◇2時間目 月 日		本時の課題	高い ← 低い 4 3 2 1
自己 評価	⑥ 関・意・態	仲間と協力して準備や片付けができた	/4
	⑦ 関・意・態	積極的に練習やゲームができた	/4
	⑧ 思・判	自分にあった課題設定ができた	/4
	⑨ 技能	パスやサーブができるようになった	/4
	⑩ 知・理	練習の目的が理解できた	/4
本時の反省・次時への課題		合計点	/20
◇6時間目 月 日		本時の課題	高い ← 低い 4 3 2 1
自己 評価	⑪ 関・意・態	授業を良くしようという意識をもてた	/4
	⑫ 思・判	新しい課題を確認することができた	/4
	⑬ 技能	新しい課題や、チームプレーの基礎を身に付けることができた	/4
	⑭ 知・理	練習方法の見直しをすることができた	/4
	⑮ 知・理	練習計画の立て方を知ることができた	/4
本時の反省・次時への課題		合計点	/20
◇7時間目 月 日		本時の課題	高い ← 低い 4 3 2 1
自己 評価	⑯ 関・意・態	前時の授業を生かそうという意識をもてた	/4
	⑰ 思・判	本時の課題を解決することができた	/4
	⑱ 技能	個人技能を連係プレーに生かした	/4
	⑲ 技能	作戦を生かしたゲームができた	/4
	⑳ 知・理	簡易ゲームの進め方が理解できた	/4
本時の反省・次時への課題		合計点	/20
◇10時間目 月 日		本時の課題	高い ← 低い 4 3 2 1
自己 評価	㉑ 関・意・態	励まし合ったり、教え合ったり、勝敗を競う中で楽しさや喜びを味わえた	/4
	㉒ 思・判	対戦チームに合った作戦を立てることができた	/4
	㉓ 技能	作戦どおりのゲーム運びができた	/4
	㉔ 知・理	ルールや審判法が理解できた	/4
	㉕ 知・理	リーグ戦を自分たちで進めることができた	/4
本時の反省・次時への課題		合計点	/20

3 授業評価アンケート (授業評価 I 資料)

より良い授業のために ～バレーボール～

年 組 番 氏名 _____ 男・女

1. あなたの取組について

★個人カードの項目別集計を、次の各項目について合計してください。

1・2・6・7・11・16・21 (関心・意欲・態度)	3・8・12・17・22・23 (思考・判断)	4・9・13・14・18・24 (運動の技能)	5・10・15・19・20・25 (知識・理解)

★ 今までの授業を振り返り、あなたの取組について良かった点や改善すべき点を書いてください。

2. 授業について

★ 次の各項目の、あてはまると思う数字を○で囲んでください。

< 授業内容 >

とても まあ あまり まったく
 そう思う そう思う 思わない 思わない

- | | | | | |
|-----------------------------------|---|---|---|---|
| 1. バレーボールが楽しいと感じられる課題が設定されていましたか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2. グループ活動中心の授業形態は、良かったですか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3. 基礎練習が中心でしたが、満足できましたか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4. グループノートや個人カードは役に立ちましたか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5. 毎時間の運動量は十分でしたか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |

< 指導方法 >

- | | | | | |
|---------------------------------------|---|---|---|---|
| 6. 協力し、お互いに技能を教え合えるグループ編成でしたか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7. 課題の解決につながるようなアドバイスや手助けがありましたか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8. 技能面で悩んでいる時、適切な模範やアドバイスがありましたか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9. 用具や施設は(ボール、ネット、得点板、コート)十分整っていましたか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10. グループノートの先生からのコメントは、役に立つものでしたか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |

< 授業の進め方 >

- | | | | | |
|------------------------------------|---|---|---|---|
| 11. これまでの授業の時間配分はちょうど良かったですか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 12. 計画を立てる時間は十分でしたか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 13. 練習の時間は十分でしたか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 14. 成績評価の方法や規準についてわかりやすい説明がありましたか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 15. 先生は、安全や健康に配慮して授業を進めていましたか。 | 4 | 3 | 2 | 1 |

★ 授業に関して、改善して欲しい点・要望などを書いてください

Ⅷ まとめと今後の課題

平成11年3月全面改訂された高等学校学習指導要領や、平成12年12月の教育課程審議会答申にあるように、学習指導要領の目指す基礎的・基本的な内容の確実な習得を図るとともに、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」の育成を図るため、その実現状況を見る「目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）」を一層重視し、児童・生徒のよい点や可能性、進歩の状況を評価する個人内評価を工夫することが重要としている。また、指導と評価の一体化を図るとともに、評価方法の工夫改善を図ること、学校全体としての評価の取組を進めることが重要としている。

それを受け「東京の教育21」研究開発委員会では、研究主題「生きる力をはぐくむ評価の研究開発」として研究開発を進めてきた。本年度はさらに「生徒による授業評価」を実施し、指導と評価の一体化を一層図ることで「生きる力」の育成を図ろうとしている。

保健体育科においては、自らの運動の課題を自ら解決するなどの学習が重要とされている。今回の実践においても、球技（バレーボール）の中で自己の能力に応じた運動の課題を設定し、その課題を自ら解決する学習内容を設定した。今回の研究主題である「生徒による授業評価」を組み込むことが、授業の成果をさらに向上させることと捉え、単元計画の中に授業評価を組み込んだ実践例を示した。このような実践から以下のような成果と今後への課題を得ることができた。

1 研究の成果

- (1) 「生徒による授業評価」を実施することで、改善すべき内容を教師が把握でき、指導と評価の一体化がさらに進むことにつながった。
- (2) 自己評価の集計を授業評価と併せて行うことで、生徒自身が授業に対する取組姿勢の振り返りができ、グループや個人の課題の発見や解決がよりスムーズに行えるようになった。
- (3) 「生徒による授業評価」を単元の中に配置したことにより、目標の実現状況が指導途中で把握でき、生徒のつまづきや問題を早期に発見し対処することができた。
- (4) 授業評価アンケートの観点を、「授業内容」「指導方法」「授業の進め方」に設定したことにより、具体的な授業改善の方向性が明確となった。
- (5) 「いつ、だれが、どのように」行うかという、教師と生徒に分けた評価計画を示すことにより、授業改善への具体的な方策を立てることができた。
- (6) 具体的な授業改善の方策を教科の枠にとらわれることなく、広く学校全体の教育課題として捉え、授業改善の具体的手段を示すことができた。
- (7) 選択制授業等で利用するグループノートや個人カードなどの具体例や活用法についても示すことができ、生徒による自己評価や相互評価の方法や活用法を明確にすることができた。
- (8) 評価の方法を複数利用することで、評価に対する生徒の信頼性が向上した。

2 今後の課題

- (1) 実施種目や授業方法と、「生徒による授業評価」の時期についてさらに研究を進め、それぞれに適した時期・方法・内容について検討を行うことが必要である。
- (2) 「生徒による授業評価」を確かなものとするため、生徒の評価活動に対しても十分な指導を行い、生徒の自己分析能力や評価能力を高める必要がある。
- (3) 自己評価や授業評価を授業時間内に行うことによる運動量の減少を、最小限におさえられるよう配慮が必要である。
- (4) 「生徒による授業評価」により、教師の授業改善に対する意識改革が更に進むことが最も必要である。